

【 11. その他 その1/2 】

○ 郡築内水面漁協
なし。

○ 南部内水面漁協

- 子供達に、海・川漁の楽しさ（危険面も含め）を体験できる機会（イベント等）を設け、今後の漁業の活性化につなげてほしい。
- 川魚がうまいという事を知ってもらいたい。
- 収入にはしていないが、自家消費及び知人への贈答品としている。副産物として役立っている。自然環境の保全では、大小のプラスチックの投棄が多く魚類の生育に悪影響を及ぼしている。
- ウナギの増量改善をとくをお願いしたい。子供・孫と一緒に楽しめるように。
- 川をきれいにしてほしい。
- 家庭排水、工場排水の洗浄による水質向上が急務である。水藻、海藻を生えさせ魚貝類の産卵場所を昔の状態に戻してほしい。
- 干拓地の潮遊池がほとんど埋め立てられて、八代の干拓地の自然は激減している。これ以上の埋め立てを止めることはできないか。子供から大人まで親しめる水辺が欲しい。
- 漁場を時々開放して、漁の楽しさ、魚のおいしさをみんなに知ってもらうようにすると思う。魚の味を覚えると買って食べるようになると思う。

○ 千丁漁協

- 稚貝の放流をお願いしたい。
- 水産単独で考えるのではなく、林業と一緒に考えた方がいいのではないか。

○ 球磨川漁協（その1）

- アユ稚魚放流の促進。球磨川産アユを市・県共にブランド化して全国に発信してほしい。漁師で生計が立てば、後継者も育つ。まず球磨川のアユを増やす取組みを市、漁協、漁師が一体となって考え、実行に移すことが課題であると思う。アユが増えてブランド化で価値が向上すれば後継者もでき、好循環になるのではないかと考える。
- 小・中学生を集めて、川で魚釣り教室を開き、その様子をテレビカメラで撮り、後日、ケーブルテレビ等で放送してみても思っている。
- 一般市民等が家族で楽しめる釣り場を何カ所か整備したらどうか。
- 限られた資源であるので、有効に活用できればと思う。若者にも参加してもらい漁の楽しさ苦しさを実感してもらえればと思う。
- 今の漁場には外来魚が種類、数共に多すぎる。外来魚の対応は急いでもらいたいし、持ち込む者、それを捕獲する遊漁者にも相応の処罰できる条例を厳しくしてほしい。ただし、地域住民の憩いの場としての漁場の規制は緩めるべき。（ハヤ釣り等の取り締りを緩めるべき）
- 約50年ほど前までは、魚は豊富であった。現在と何が異なるのか考えてみたら水産資源を増やすヒントになるのでは。
- 川遊びが出来る親子で遊べる河川の整備が必要であると思う。
- 水質改善をお願いしたい。
- 漁協でアユ、青のり等をブランド化し、日本一の球磨川産をアピールしてほしい。そこを組合全体で考え、協力し又、知恵を出し合って皆で組合運営を考えていくべきだと思う。
- 八代市は、自然環境に恵まれています、その恵まれている地勢等の環境を生かしてきていないと感じている。球磨川といった他に誇れる河川を有しているにもかかわらず、漁場の整備を進展してない状況。今回のアンケート結果が水産振興ビジョン策定に寄与することを願うものである。
- 球磨川漁協としての意見であるが鵜及び鯉等によってアユ、はえ等が食べられて漁獲高が減少している現状。八代市水産林務課と県とタイアップして対策をお願いする。
- 球磨川の漁業での生活は困難と思われるので、川魚の質と量を向上させて、組合員以外の方の趣味的な釣りを増やす事もいいのではないか。河川は、人が住んでいない山間部などでは、汚れていないが、人が住んでいる地域からは生活排水が河川を汚しているのではないと思う。洗剤や食用油などが河川の汚れに全く関係ないのかどうか疑問に思う。

【 11. その他 その2/2】

○ 球磨川漁協（その2）

- アユ釣りをしているが、年々川の水の濁りが多いように思う。これからも、水質等の改善をしてもらいたい。
- 各所に作ってある堰の魚道を魚がスムーズに登れるようにしてほしい。
- 現在の社会制度の変化では、漁業のみで生計を営むことは困難であるとする。その上で、球磨川の漁場を守りながら、後継者を育てていくためには、考えなければならない問題が山積していると思う。大変だが、やらなければならないことでご苦労とは思いますがよろしくお願ひしたい。これからは、自然が大切な時代になるので天下の球磨川という資源を生かし、川下りはもちろんのこと、全国の観光を結びつける開拓等も大切と考える。
- 下流は水が出ないと魚がとれない。シジミの放流をお願ひする。
- 現在、ハエ釣の人がほとんどいない。ハエ釣料金を安くしてほしい。
- 外来魚の対策。

○ 氷川漁協

- ダム上流にもアユの稚魚をもっと増やしてほしい。
- 多自然型の河川整備を行い、子供たちが安心して川遊びが出来る環境を造り、川魚に興味を持ってほしい。氷川ダムの外来種を減らすために取り組んでほしい。
- ダムより上流にアユ、ヤマメを放流してほしい。
- 近年、カワウが稚魚を含めた魚を食している。放流を重ねても害鳥に取られたら漁業者にとっては将来性がない。
- 害鳥対策（鶺鴒、サギ等）
- 自然の稚魚が遡上し易い魚道の整備（見直し）。
- 昔ながらの川床がなくなり、魚の生息に支障をきたしている。川床がこれ以上掘れないような措置をしてほしい。
- アユの稚魚を数多く放流してもらいたい。氷川（泉）。アユの解禁日を現在より1か月程遅くした方がよい（6月ではアユが小さい）。鶺鴒が繁殖しているので、駆除を強化してもらいたい。
- ダム上流にアユを放流してほしい。
- 氷川流域に気軽に入水でき、もっと水と親しみ易い状況（状態）を造り、水遊びが出来る場所の提供を希望する。釣り堀等、子供も大人も遊べる区間を氷川に設けて、水量水質の確保を検討してほしい。
- 氷川のアユをブランド化するようにしたらどうだろうか。まず、数を多く放流。釣る人の楽しみを。
- うなぎも獲れない、今年、2匹しか獲れていない。
- 氷川では、生活の費用になるほどの水産物は取れない。
- 今よりもう少し放流してほしい。
- アユの産卵場が欲しい。
- もう少し、アユ放流対策を検討してほしい。
- 運動体力の維持と、遊びの世界であって、経済的目的ではない。子供のころの面白さが忘れられない。
- 鶺鴒の駆除。